

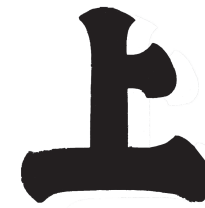
村上城関連略年表

永正 4年	1507	本庄時長の本庄(村上)城落城「永正の乱」
永正 6年	1509	文献上の「村上」の地名の初出
永禄 11年	1568	本庄繁長、村上城に抛り上杉謙信と戦う。翌年、伊達輝宗・葦名盛氏の仲介により和議成立。繁長、謙信に降る。
天正 16年	1588	繁長、庄内十五里原で最上義光勢を破る。
天正 18年	1590	繁長、庄内出兵を豊臣秀吉に咎められ(惣無事令違反)除封、大和国に蟄居する(のち、上杉家に帰参)。村上城は上杉家直江兼続の実弟、大内実頼の預かりとなり、城代として春日元忠が入る。
慶長 2年	1597	瀬波郡絵図に村上城が「村上ようがい」として描かれる。
慶長 3年	1598	上杉景勝、会津へ移封 村上頼勝が加賀小松から9万石で入り、村上城及び城下の改造に着手
元和 4年	1618	村上忠勝、家中騒動のため除封 堀直奇が越後長岡から10万石で入り、惣堀の開削や石垣構築に着手
寛永 19年	1642	堀直定、7歳で死去 堀家無嗣断絶
正保 1年	1644	本多忠義が遠江掛川から10万石で入封
慶安 2年	1649	忠義、陸奥白川へ転封 松平直矩が播磨姫路から15万石で入る。
寛文 3年	1663	直矩、三層天守新造のほか、村上城の大規模改造に着手
寛文 7年	1667	直矩、播磨姫路へ転封 榊原政倫が播磨姫路から15万石で入る。落雷により三層天守などが焼失
宝永 1年	1704	榊原勝乗、播磨姫路へ転封 本多忠孝が播磨姫路から15万石で入る。
宝永 6年	1709	忠孝死去 分家から忠良を迎えるも5万石となる。
宝永 7年	1710	忠良、三河刈谷へ転封 松平輝貞が上野高崎から7万2千石で入る。
享保 2年	1717	輝貞、上野高崎へ転封 間部詮房が上野高崎から5万石で入る。豪雨により城門石垣が崩壊
享保 3年	1718	落雷により二の丸御鐘櫓が焼失する。
享保 5年	1720	間部詮言、越前鯖江へ転封 内藤弑信が河内大蓮から5万90石で入る。以後、約150年間、内藤家の治世となる。
慶応 4年	1868	村上藩、奥羽越列藩同盟に加盟、羽越国境方面で戦う。
明治 2年	1869	内藤信美、版籍を奉還する。
明治 5年	1872	村上城内の建物、武具、立木等の払い下げが布告される。
昭和39年	1964	新潟地震により本丸石垣の一部が崩壊する。
昭和52年	1977	豪雨により出櫓台石垣の一部が崩壊する。
平成 5年	1993	村上城跡、国史跡に指定される。



内藤家家紋「下がり藤」

村上城縄張り図



本庄繁長馬印



御鐘門跡枅形



出櫓台



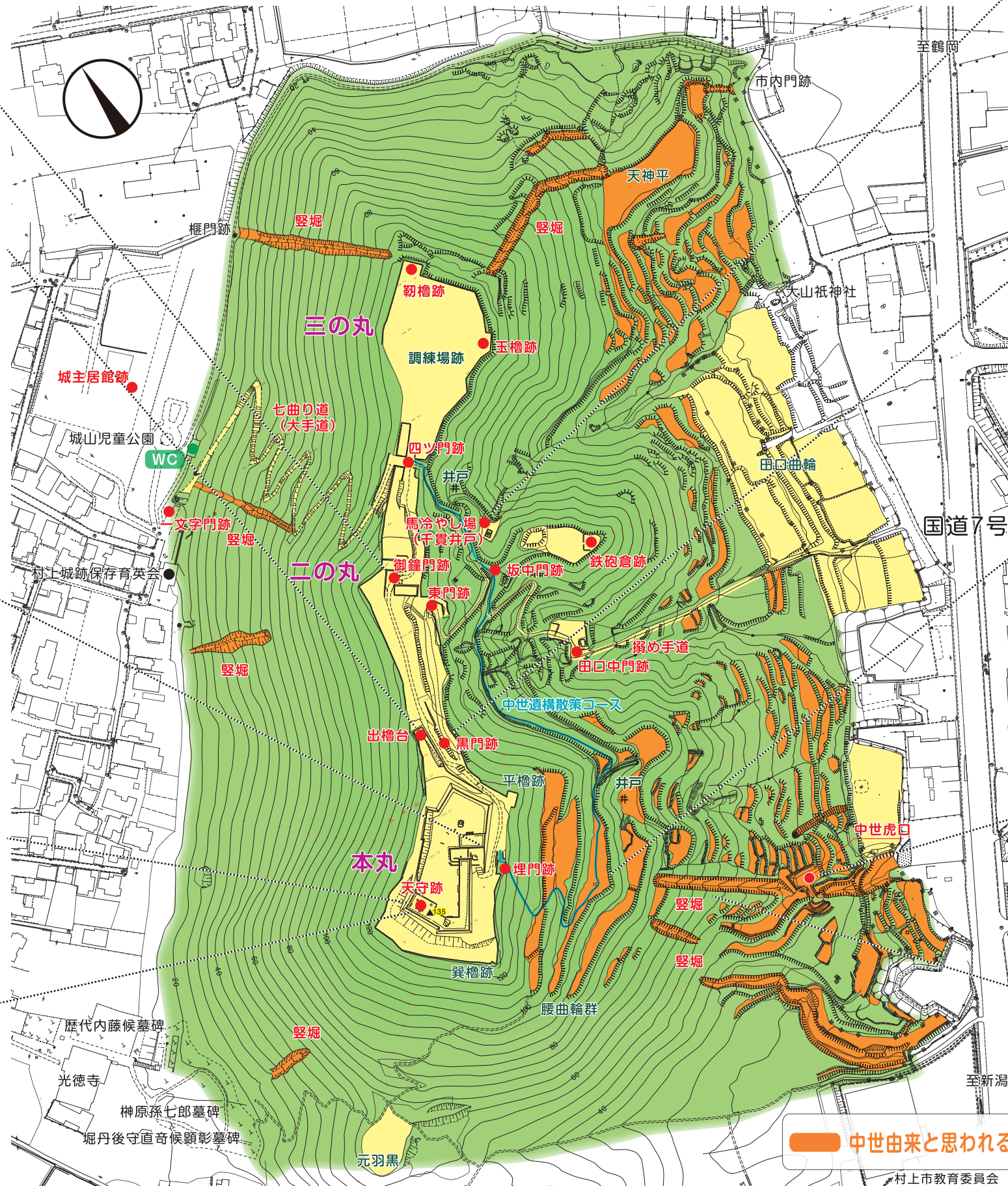
本丸入り口の鏡石



天守台から望む日本海と佐渡島



天守台空撮



馬冷やし場(千貫井戸)



黒門跡検出柱礎石



腰曲輪



中世虎口枅形



石垣

中世由来と思われる遺構